名古屋西南ロータリークラブ
Weekly Report

安江英雄会長年度テーマ
継続は力、協力は強力

例会場　名古屋クレストンホテル　TEL　052-264-8000
例会日時　木曜日　12:30
クラブ会報広報委員長　二俣景一

2006-07 年度 R.I.会長
ウィリアム B. ボイド

承 認　1995.3.28
会 長　安江英雄
幹 事　後藤 敞

事務局　名古屋市中区栄 3-29-1
名古屋クレストンホテル 1007 号
TEL　052-263-1324
FAX　052-263-0730
Email　seinan1@fancy.ocn.ne.jp
HP　http://rc.nagoya-seinan.org/

第545回例会　No. 6　平成18年　8月17日(木)　晴	
■ ﾛｰﾀﾘｰｿﾝｸﾞ	「君が代」「我等の生業」
■ 出席報告	会員47名中31名出席
■ 出席率	70.46%　出席計算人数44名
■ 修正出席率	7月27日　95.56% 8月　3日　93.18%
■ ゲスト	川原さんゲスト　岩田宏氏
■ バナー交換	高野山RC(北折守男さん)

会長挨拶　安江 英雄

「お盆について考える」

オボンという言葉は、古代インド語(梵語)のウラバナの音字ウラボン(孟蘭盆)が略されてボンとなり、それに敬語のオがつけられたものです。
そして“さかさにつるされたような苦しみを救う”という意味であると教えられています。お盆は、苦しみから救い、救われることつまり四苦八苦を乗り越えることを願って行なわれる行事にほかなりません。
又、亡くなった方の初めて迎えるお盆のことを「新盆(にいぼん)」あるいは「初盆(はつぼん)」といって特に心をこめて供養を営むのがしきたりになっています。
“迎え火”と“送り火”がありますが、迎え火は 13 日の夜、送り火は 15 日の夜、ご先祖様が我が家に帰られる時、“ここですよ”という場所を決めるならわしです。この時、家族全員で先祖を迎え、自分達が先祖様のお陰で今此の世で幸せに暮らせるのだということを話し合うことが大切だと思います。魂の存在、命の尊さを語りあうことにより子供達がわき道にそれることなく、幸せな生活が営まれると思います。親が子を殺し、子が親を殺すといった様な現在の社会情勢は少しでも無くなる様な、子供達にとっても、ご先祖様への理解を深めるよい宗教教育の機会になることを願います。

ニコBOX

安江会長　今年の夏の暑さには参りました。忙しい盆休みも終わり、明日より平常に戻りそうです。
後藤幹事　8年ぶりの卓話です。お楽しみに。
長谷川龍伸さん　本日、卓話をさせていただきます。よろしくお願いします。
近藤さん　本日ゲストで、当グループ名古屋放射線診断財団理事長　岩田宏君を紹介します。入会後よろしく。
渡邉さん　暑中お見舞い申し上げます。この暑さ、なんとか乗り切りましょう。

岡田さん　誕生日祝いを頂き有難うございました。
丸山さん　お盆明け、電力供給が厳しくなります。節電をお願いします。本日は PR のため上着なしで失礼します。
中川さん　前回はお休みをいただき失礼をしました。
●本日の卓話後藤　敞さん、長谷川龍伸さん　よろしくお願いします。　日下、長谷川千廣、藤野、池井戸、西川、鈴原、水野、服部、松尾、林、加藤、矢野、河原、和田、磯部、吉田、森　(敬称略)
本日合計　51,000円

委員会報告

●出 席　委員長　日下宏次

7月13日に「10ヵ年皆出席」を迎えられた**西川 博さん**へ、ダイア入り会員章を贈呈致しました。

会 員 卓 話

「裁判員制度について」

長谷川龍伸

「事故と事件」

後藤　敞

幹事報告

1. 地区大会の登録をまだされていない出席義務者の方は至急事務局までお申込み下さい。
2. 次週２４日の例会は夜間例会に変更されていますのでお間違えのないようお願い致します。

バナー交換

北折　守男

高野山ＲＣは会員３０名位の小さなクラブでございました。退会者が多く３０名位になったようでございます。高野山ＲＣの歌を独自に作り、例会にて斉唱しておりました。卓話ではやはり会員増強が話題でございました。同クラブのウィークリーを参考までに。

☆☆次回例会のご案内☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

8月31日(木)　第547例会

「カンボジア事業について」　国際奉仕委員会

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

ハイライトよねやま78

8月11日発行　WEB　Site より抜粋

1. 寄付金速報

― 今年度も特別寄付金が好調なスタート！―

2006-07年度が始まって1カ月が経過しました。7月の寄付金は約2億4千万円で、前年度に比べて7.3%増、約1千6百万円の増加です。普通寄付金が3.3%増、特別寄付金が20.4%増と、昨年度7月に引き続き、とりわけ特別寄付金が良好な滑り出しです。

前年度は14億5千万円の予算目標に対し、約1千万円上回るご寄付をいただきました。今年度も前年と同額の予算目標を立てています。今後、奨学生採用数800人を縮減することなく維持、さらには拡大できますよう、米山奨学事業への一層のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

2. 2007学年度採用の指定校が決定！

来年4月採用の指定校が決まりました。各地区選考委員会からの報告によると、2007学年度の指定校は399校で、昨年(401校)とほぼ変わらず、うち5校が“地区奨励奨学金”対象校として大学以外の高等教育機関が選ばれました。また、大学学部3～4年に相当する高等専門学校専攻科を指定校とした地区は、昨年より1地区増加。また、過去最多となる24地区が、独自の選考基準を大学へ提示しました。多く挙げられた基準は「国籍割合への配慮」、「日本語運用能力」、「ロータリー活動への理解、積極的参加」などです。

推薦者数の合計は全国で1,613人、この中から新規採用583人が選ばれます。

YUに高専専攻科を指定校に含めた地区(3地区)

2600地区：長野高専専攻科
2640地区：和歌山高専専攻科
2650地区：福井高専専攻科

地区奨励奨学金導入地区(4地区)

2550地区：アジア学院
2660地区：日本学生支援機構大阪日本語教育センター
2680地区：神戸YMCA学院専門学校、(財)PHD協会
2760地区：愛知江南短期大学

地区を超えた指定校導入地区(1地区)

2770地区が、2580地区の東京大学(医学系)・お茶の水女子大学、および2790地区の聖徳大学を指定

3. 春の叙勲で米山学友が受章！

平成18年春の外国人叙勲で、2人の米山学友が旭日章を受章しました。今回は、旭日中綬章を受章した李賢起さんをご紹介します。

李 賢 起 氏

(韓国／1970-72／筑波大学大学院／東京世田谷RC)

日本の古典文学や日本語教育の研究に多大な業績を残したほか、日本の大学などで、日韓の学術交流を幅広く推進。NHKハングル講座やＫＢＳテレビの日本語講座の講師を務めるなど、両国語の普及にも貢献しました。韓国では、日本語教育の先駆者として教科書を出版したり、韓国政府に対する日本語教育の審議及び諮問活動を行うなど、日韓両国の文化理解に大きな役割を果たしています。2005年には日本文化交流基金賞を受賞。

李さんは、「今回の身に余る栄誉は、在韓日本大使館をはじめ日本の皆様から、ご指導とご協力をいただいた結果です。改めて感謝を申し上げます。この叙勲が、私個人の喜びと光栄にとどまらず、韓日両国の学術文化交流、相互理解と親善のために努力しておられる方々への激励に繋がることを切に希望致します」と感謝の気持ちを述べました。